

(株)ジャムコの航空機整備カンパニーによる不適切な整備作業に係る経緯

1. **不適切な整備作業：熱処理を適切に実施していない部材の使用（平成15年12月）**

- ・ターボプロップ機（ボンバルディア式 DHC-8-314 型）の主脚格納部損傷修理において、熱処理が適切に実施されていない部材（補強材）を使用
- ・正規の部材を用いて再修理

厳重注意（平成15年12月）

- ・東京航空局前任航空機検査官からカンパニー・プレジデントあてに文書で厳重注意
- ・再発防止策の策定及び報告を指示

再発防止策の報告（平成16年1月）

- ・カンパニー・プレジデントから以下の是正対策に関する報告を受領
関係者への再教育
関連社内規則の見直し

2. **不適切な整備作業：不適切なリベットの使用（平成16年3月）**

- ・回転翼航空機（アエロスパシアル式 AS332L1 型）の機体構造の改造において、機体メーカーの指示と異なる処理がされたリベット（27本）を使用
- ・正規のリベットを用いて再作業

厳重注意（平成16年5月）

- ・東京航空局保安部長からジャムコ社長あてに口頭で厳重注意

再発防止策の報告（平成16年5月）

- ・ジャムコ社長から以下の是正対策に関する報告を受領
関係者への再教育
作業指示方法の見直し

3. **その後の不適切な整備作業**

エンジン回転計の信号線の不適切な接続（平成16年10月）

- ・小型機（ブリテンノーマン式 BN-2B-20 型）のエンジンを交換した際に、回転計の信号線の接続が不十分であったため、飛行中、当該回転計に信号が伝わらない不具合が発生

油圧ポンプの不適切な交換（平成 16 年 10 月）

- ・回転翼航空機（アエロスパシアル式 AS332L1 型）の左側油圧ポンプを誤って右側用のものに交換、その後の着陸装置作動試験時に規定の性能が得られず、不具合が判明

ホイールの温度ヒューズ取付の緩み（平成 16 年 10 月）

- ・ターボプロップ機（ボンバルディア式 DHC-8-200 型）のホイールの温度ヒューズ取付に緩みがあったため、タイヤの空気漏れが発生。予備ホイール 1 点にも同様の緩みが判明。

4. **ジャムコ社長による是正状況報告（平成 16 年 12 月）**

- ・ジャムコ社長から東京航空局保安部長あて、一連の問題に対する是正状況及び今後の取組みに関する報告を受領
 - 不具合発生時における指示・報告体制の見直し（品質保証体制の強化）
 - 規定類遵守等に関する教育訓練体制の見直し

東京航空局による立入検査（平成 17 年 2 月）

- ・会社が計画した是正対策の実施状況について検査。以下の問題を確認。
 - 指示・報告体制の見直しの未実施
 - 会社の統一した品質管理制度の構築、各組織の職務権限の見直し等が未実施
 - 整備従事者等に対する規定類遵守の徹底の未実施
 - 規定類遵守等に関する教育訓練体制の見直しが未実施

立入検査後にも不適切な整備作業が判明

点検時における速度計の損傷（平成 17 年 2 月）

- ・小型ターボプロップ機（ビーチクラフト式 C90A 型）の定期点検時において、作業手順書に従わず試験を実施し、速度計を損傷

エンジン整備作業洩れ（平成 17 年 3 月）

- ・マニュアル改訂部分の作業指示書への反映洩れにより、小型機（ビーチクラフト式 A36 型）のエンジンについて必要な追加点検（エンジン交換 25 時間後に 100 時間点検と同内容の点検の実施）が未実施であることが判明

業務改善勧告（平成 17 年 4 月）